

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 1月 8日

【評価実施概要】

事業所番号	0174700963		
法人名	株式会社アルムシステム		
事業所名	グループホーム上佐幌ふれあい館		
所在地	〒081-0035 北海道上川郡新得町字上佐幌基線 8 6 番地 (電 話) 0156-69-6565		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北 2 条西 7 丁目 1 番地		
訪問調査日	平成20年10月27日	評価確定日	平成21年1月8日

【情報提供票より】 (平成20年10月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	17年	3月	22日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人
職員数	7 人	常勤	6人,	非常勤 1人, 常勤換算 6.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	11,000~21,800 円
敷 金	有 (円)		無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(25,200 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		700 円

(4) 利用者の概要 (10月27日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名	
要介護 1	3 名	要介護 2	4 名			
要介護 3	1 名	要介護 4	1 名			
要介護 5	0 名	要支援 2	0 名			
年齢	平均	88 歳	最低	80 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	サホロクリニック、わたなべ歯科
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、平成17年に旧小学校の校舎を活用し、改築により開設した。共用空間の天井は吹き抜けになっており、居室とともに広々として明るい。また、職員・利用者の動きが相互に見通せる造りで、車椅子の対応にも不自由がなく、安心してゆったりとした自由な暮らしを確保している。地域の体育館が隣接しており、災害時の緊急避難場所にもなっている。地域との交流もあり、孤立することなく恵まれた環境である。管理者と職員は、自然体で利用者と大家族のような関係を構築しており、笑顔や笑い声もあり、心和む事業所である。管理者と職員の、ケアサービスの質の向上に対する意欲的な取り組みにも期待できる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回課題のうち、パンフレットについては、今後に向けて地域密着の独自の理念を掲載したものを作成し、地域への案内や啓発に活かすことを、管理者は意欲をもって考えている。また、管理者は、医療関係者との連携に真摯に取り組んでいる。今後は更に、事業所への冬期の交通の便等を考慮し、重度化や終末期の指針等について家族との話し合いや意向の共有が図りやすいように、訪問診療医の確保に取り組むことが望まれる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員で自己評価に取り組み、話し合いを重ねながら、管理者がまとめていく。評価内容は、利用者のケアサービスの質の向上につなげている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月に1度開催し、事業所の運営や活動の状況について報告するとともに、参加者で活発な意見交換を行っている。そこで得た意見は、事業所の運営に活かしている。運営推進会議の記録も詳細にまとめ、保存している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 職員は、家族の来訪時に話し合いを行い、利用者の健康状態や暮らしぶりなどを報告するとともに、家族が要望や意見を表せるよう配慮している。また、事業所だよりの発行のほか、個別のたよりの送付や、必要に応じて電話連絡もしている。重要事項説明書には、外部の苦情相談窓口も明記している。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	事業所は町内会に加入し、老人会・青年会等からの誘いを受け、利用者の状況をみながら行事に参加したり、近隣の神社の祭りに出かけるなど、地域住民と交流している。地域の体育館が同じ建物の中にあり、日常的に地域住民と交流する機会も多い。農家から季節の野菜や山菜をもらったり、冬期は除雪機を持つ地域住民が事業所の周りの除雪をしてくれている。事業所は、地域に馴染んだ運営を心がけ、利用者の生活の質の向上につなげている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域社会とのつながりを大切にした事業所独自の理念をつくりあげ、事業所内に掲示している。	○	法人のパンフレットはあるが、事業所独自のものは作成することを考慮中である。今後に向けて、地域とのつながりを大切にした独自の理念を盛り込んだパンフレットを作成し、利用案内や地域啓発に役立てることが期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員が事業所独自の理念を記載したカードを携帯し、常に理念に基づき日々の生活を意識しながら、利用者が安心して暮らせることを支援している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、地域行事への参加も多い。老人会や青年会から行事参加への誘いもあり、利用者の状態に応じて地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は、自己評価・外部評価の意義を理解し、全員で自己評価に取り組んでいる。評価の内容は職員間で話し合い、日々の生活の具体的な実践に反映させている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、地域代表、民生委員、地域包括支援センター職員、利用者家族をメンバーに、2ヶ月に1度開催している。事業所の取り組みや活動の報告を行うとともに、活発な意見交換を行って、ケアサービスの質の向上に取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは、事業所の運営や利用者についての相談などで連携を取っている。また、町からの行事参加への誘いに応ずるなど、利用者の生活の質の向上につなげている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族には、事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、受診状況等を報告している。事業所だよりを発行しているほか、個別のたよりも送っており、さらには必要に応じて電話連絡も行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、家族来訪時には挨拶や声かけをし、家族が気軽に意見や要望を表せるよう配慮している。また、重要事項説明書には外部の苦情相談窓口も明記している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、利用者との馴染みの関係の大切さを考慮し、職員の異動や離職時には十分な引継ぎをし、利用者へのダメージを最小限にするよう配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員を段階に応じた内外の研修に参加させるなど、職員の育成に努めている。また、長く勤務している職員は、新しい職員が働きながらトレーニングができるよう配慮しており、職員間で研鑽しながらスキルアップに取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、同業者との情報交換や研修会に参加している。ホーム長は、近くにある同法人の事業所と兼務しており、交流を密にし、ケアサービスの質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事業所の利用開始前には、見学や話し合いを充分行い、利用者が事業所の雰囲気に馴染めるよう配慮している。また、建物の構造上居間も広く、車椅子対応に適しているため、家族と相談しながら利用者にあったケアを工夫し、安心して利用できるよう努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者に対し人生の先輩として敬意をもって接しており、調理等教わることも多く、家族のような関係を築いている。利用者の誕生日には、巻寿司の得意な利用者が張り切って作り、職員や他の利用者を喜ばせている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者一人ひとりの生活歴や暮らし方の要望、家族との関係を把握し、記録に残して、その人らしく生活するにはどのように取り組めばよいかを検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員による利用者の担当制を導入しており、家族の要望や利用者の日々の生活を細かく記録するとともに、毎月のカンファレンスで検討を加え、介護計画を作成している。介護計画は家族に説明し、同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、長期目標・短期目標を定め、3ヶ月・6ヶ月毎に見直しを行っている。また、利用者の体調やケア課題に変化がある場合には、家族とも相談しながら、その都度見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者のかかりつけ医への送迎のおりや、利用者の要望にあわせてドライブがてら自宅に立ち寄るなど、柔軟な支援を心がけている。また、家族が事業所に宿泊することもある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は、希望するかかりつけ医に通院している。かかりつけ医と事業所の関係は築かれているが、訪問診療は今のところ歯科医に限られている。	○	事業所は町の郊外にあり、交通の便はよいとは言えない。冬期間には、家族が通院に付き添うことや、重度化や終末期に向けての対応などを考慮すると、日常的に訪問診療の医師を確保し、家族の安心に繋げる取り組みが期待される。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	管理者は、家族と共に、重度化や終末期に向けた方針について、話し合う機会を設けるよう取り組んでいる。また、事業所近隣の医師との連携を持てるように検討もしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者一人ひとりの尊厳を尊重し、プライバシーを損ねることのないよう配慮している。トイレ誘導、入浴介助、見守り等もさりげなく優しく声かけをするようにし、プライバシーの確保に努力している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の暮らしのペースを大切にし、体調や天候を考慮しながら無理のない支援をしている。午後のひとときは利用者同士の話も弾み、また、利用者が参加しやすいように職員が工夫したボールゲームに、職員と利用者が一緒に興じている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	農家から提供された新鮮な季節の野菜を採り入れた食事を提供している。職員、利用者は、同じ食卓で、和やかに楽しみながら食事をしている。また、利用者の状態に応じて盛り付けや後片付けも職員と共に行っている。台所には流し台が複数あり、可能な利用者は食後に自分の茶碗を洗っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、利用者の希望に応じて、週2～3回のペースで自由な時間帯に行っている。職員は利用者の状態に合わせて介助や見守りを行っており、入浴を拒否する利用者はいない。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、利用者の状態や生活歴を考慮し、残存能力を活かした役割や楽しみ、気晴らしを支援している。誕生日会に、巻寿司の得意な利用者が寿司をつくったり、昔遊びのけん玉の披露、掃除や調理を手伝うほか、事業所独自で工夫したボール遊びなどを利用者は楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所の近くに神社があり、日常的な散歩のコースとなっているとともに、夏祭りや催事など、利用者が楽しみにして出かける場所となっている。また、買物や弁当を持ってのドライブ、日帰り温泉、イチゴ狩りなど、工夫しながら戸外に出かける支援に取り組んでいる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	廃校になった小学校校舎を利用した事業所であり、住民が利用する体育館の玄関を共有しているため、夜間のみ施錠している。事業所の入口は、内玄関にセンサーがあり、出入りが確認できるようになっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	小学校であったことから、災害時は近隣住民の避難場所になっている。消防団との連携体制もできている。また、定期的な避難訓練を行い、救急救命講習も受けている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事量・水分量をチェックし、記録している。職員は、利用者の状態に応じた食事内容や食習慣に配慮し、支援を工夫している。日曜日・月曜日以外は、法人内の管理栄養士がカロリー計算した食材が届いている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、広々としており、天井は吹き抜けで全体が明るい。車椅子の移動に最適であるとともに、利用者が共用空間を歩くだけでも、運動量の確保につながっている。また、ソファも設置され、ゆったりと思いいに過ごすことができる工夫がされている。壁には、利用者の様子を撮った写真が飾られ、家庭的な雰囲気もあり、心地よい空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、ゆったりと広く、利用者は使い慣れた家具や仏壇、ソファを持ち込み、また花や写真を飾り、その人らしい居室となっている。また、命日には、住職の来室を受けて、居室でお参りをする利用者もいる。		

※  は、重点項目。